

## 図書館を考える会アンケート 回答

- 1、図書館は「自治体の文化のパロメーター」と言われていますが、静岡県の文化・教育行政に於ける図書館の位置づけは、どのようなものであるべきとお考えですか。お聞かせください。

図書館は県の文化・教育行政の基盤であると考えます。人類が蓄積した文化の集積ともいえる図書資料を、収集・活用・保存する図書館の機能は極めて重要です。特に、県民の生涯学習を支え、市町図書館を支援する県立図書館の役割を、県政の中でも最大限尊重していきたいと考えます。そのことにより、文化や教育行政そして県民の暮らしが充実発展する好循環にもつながると思います。

- 2、静岡県立中央図書館は、直営の運営体制を堅持し、県民に充実したサービスを提供しています。専門性と知的財産を次世代に継続できる直営体制を今後も続けていただけますか。

本来、図書館は利用者の幅広いニーズに応え得る高い専門性に裏づけられている必要があります。そのためには、職員の資質や財政措置の確保が不可欠です。中心的な県立図書館こそ「直営体制」を維持し、図書館サービスの充実を確保すべきと考えます。

- 3、県内の市町図書館への支援、他機関とのネットワーク、ユニバーサルデザインについてのビジョンをお聞かせください。

私の勤務した静岡文化芸術大学においても市民への図書館開放や他図書館とのネットワークを推進していました。すべての図書館は閉ざされてはならず公開・連携が基本です。特に、県立図書館は高度な専門性を確保しつつ、他館への支援やネットワークの構築、多文化サービス等の拡充をすべきと考えます。それが県民の幸福や豊かさにもつながると確信します。

4、今後の新館建設計画についてのビジョンをお聞かせください。

県民の生活を多面的に支えるためにハード・ソフトの両面で県立図書館にふさわしい「新館建設計画」を進めるべきで、拙速に取り組まず、じっくりと勉強し、議論を重ねたいと思います。

ビジョンの核として、県民の

○文化拠点、学習拠点、情報拠点（そして、くつろぎの拠点）

○生活支援（県民は今日、様々な生活課題に直面しています）

○行政やビジネスとの連携と支援

を掲げ、そのための専門性の確保と市町・大学等図書館との連携を計画の基礎に位置付けたいと考えています。